

「ピアノ・テクニックの科学 プロフェッサー・ヤンケのピアノ・メソッド」

アンスガー・ヤンケ／晴美・ヤンケ共著
アルテスパブリッシング発行



ピアノを愛する皆様、学習中の方、ピアノの先生、そしてコンサート・ピアニストとして活躍中の方も 「ピアノ・テクニック」の問題を今一度見直し、あなたの演奏をグレードアップしませんか！

この本は、1960年代後半から2005年まで、ミュンヘン国立大学でピアノ教育に生涯を捧げたエルンスト・アンスガー・ヤンケ教授によって編み出された独自のピアノ・メソッドの原文邦訳とその解説を、日本で初公開したものです。本の中でも特に大きなウエイトを置いて語られている「テクニック」について、ヤンケは次のような言葉を残しています。

「演奏者が感じ、イメージした響きのニュアンスが目的に適った動きとなって楽器演奏に実現される瞬間では、テクニックがすべてである」

「テクニックはテクニックそのものから解放されるためにこそ必要である」

「テクニック」は音楽を表現するためにこそ大切な楽器奏者の課題ですが、演奏の複雑な「動き」をいかに効率的に行うかという点に関しては、スポーツの技術習得に似て、科学的な解明が必要です。ヤンケが医学や物理学に分野を広げて研究し、その根拠に基づいて確立したピアノ・テクニック・メソッドは、「重力」「動き」「身体構造」の3点が重要な柱になって展開されています。演奏に関わる指や腕の合理的で無理のない自然な「動き」を究明するためには、身体の構造を知ることが大前提となり、テクニックはその機能に即して考え抜かれたものであるべきだ、という観点で解剖学に立ち返り、考察を行いました。また先人たちの論理では説明しきれなかった「重力」と「動き」との関連を解き明かし、さらには脳の働きにも注目して、スポーツのトレーニングと同様に「動き」のイメージを積極的に練習に生かす知的な学習を高く評価しました。

この本では、このようなヤンケのピアノ奏法の理論を、演奏と教育に携わる全ての人の立場に立ってわかりやすく解説すると共に、これを実行するために、目的にあった具体的な方法を紹介しています。「なぜそうあるべきか」「では、どうすれば改善できるか」というヤンケの主張を、是非ご一読ください。

